

保育園・幼稚園勤務者100名 「給食指導の本音アンケート」 調査報告

調査実施日：2026年1月23日～2月5日 / サンプル数：100名

このレポートについて

「給食指導のあり方が嫌で、園を離れた」——給食指導が一因で退職した・退職を考えたことがある現場職員は、**25.0%（約4人に1人）**に達した。本調査では、幼保施設で働く・働いた経験のある100名に、給食指導に対する本音を聞いた。

調査の目的と概要

目的	給食指導の現場にいる（いた）職員が、どのような経験・意識・本音を持っているかを明らかにするため、保育園・幼稚園での勤務経験がある方を対象にアンケートを実施した。
実施日・方法	2026年1月23日～2月5日・インターネット調査
対象者と回答数	きゅうけん編集長・山口健太がSNSを通じて呼びかけた、保育園・幼稚園での勤務経験がある方 100名
回答者属性	現在現場で働いている保育士・教諭：67.0%（67名） / 理事長・園長・管理職：17.0%（17名） / 過去に現場で働いていた（離職中・転職済み）：16.0%（16名）

1-1. 「あなたの立場を教えてください」に対する回答結果（全体100名）

Q1. あなたの立場を教えてください（最も近いもの）（SA）

※ SA：単一回答

現在、現場で働いている保育士・教諭 **67.0%** 67名

理事長・園長・管理職 **17.0%** 17名

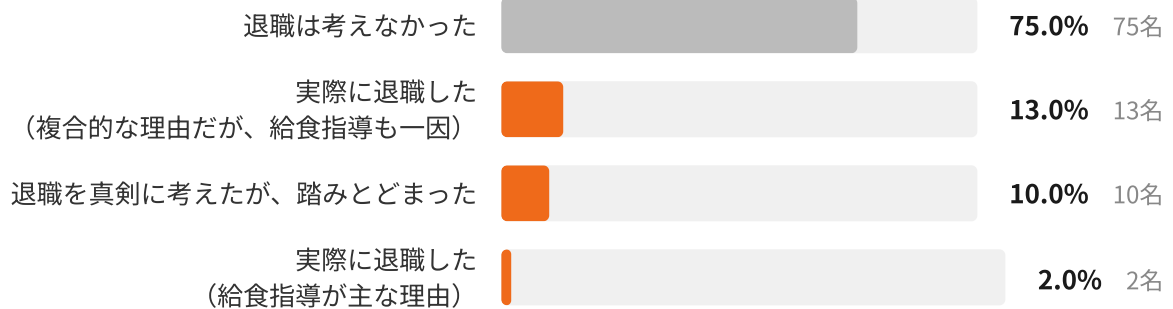
過去に現場で働いていた
(離職中・転職済み)

16.0% 16名

2-1. 「給食指導の方針が原因で退職・転職をしたことはありますか？」に対する回答結果（全体100名）

Q2. 園の「給食指導の方針」が原因で、退職や転職をしたことはありますか？（SA）

※ SA：単一回答



25.0%

退職した・または退職を考えた
(下位3項目の合計)

約4人に1人

の現場職員が給食指導を理由に
離職・離職検討を経験

3-1. 「月給1万円の差があったら、どちらの園を選びますか？」に対する回答結果（全体100名）

Q3. 転職活動中で以下の2園から内定が出た場合、どちらを選びますか？（SA）

A園：月給24万円／完食が目標・厳しいマナー指導重視

B園：月給23万円／完食指導なし・楽しい雰囲気重視

※ SA：単一回答 ※ その他の条件（立地・勤務時間）は同一と仮定



99.0%

ほぼ全員

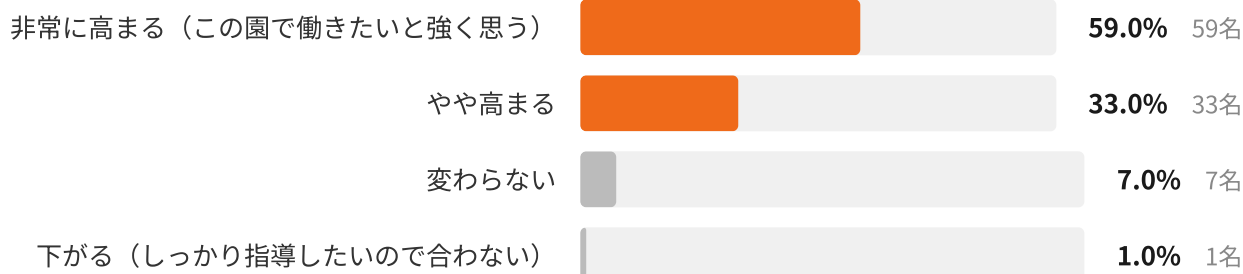
「B園（完食指導なし）」を選ぶ
（上位2項目の合計）

が月給1万円の差より
「給食指導のあり方」を優先

4-1. 「求人票に『完食指導を行いません』と書いてあったら、応募意欲はどう変化しますか？」に対する回答結果（全体100名）

Q4. もし求人票に「当園は完食指導を行いません。子どもも保育士も、笑顔で食べられる楽しい食事時間を大切にします」と書いてあったら、応募意欲はどう変化しますか？（SA）

※ SA：単一回答



「非常に高まる」「やや高まる」を合計すると**92.0%（92名）**が応募意欲の向上を示した。求人票に給食指導の方針を明記することが、人材確保にも直結する可能性を示している。

5-1. 「給食指導に関して『辛かった』『モヤモヤした』エピソード」主だった回答の抜粋

Q5. 給食指導に関して「辛かった」「モヤモヤした」エピソードがあれば教えてください（FA・任意）

※ FA：自由回答（任意） 有効回答66件 ※ 意味のある回答から抜粋して掲載。誤字・表記は原文のまま。

「実習のとき（2歳児・秋）、もうすぐほぼ完食というところで『トマト一口は食べて』と担当保育士が食べさせると、今まで食べた全てのものを吐いてしまった。その一口がなければ美味しくお腹も満たされたのに、と残念に思いました」

（保育士・実習時の経験）

「牛乳が苦手な1歳児に対し、牛乳を飲み干さなければお茶を飲ませない指導が行われていた。夏、そのおむつ替えをしたとき、うんちがうさぎのコロコロうんちのようだった」

（保育士）

「完食を求めすぎで泣いている子を前に、泣いていても無理やり食べさせる先輩を見て何も言えなかった。のちに、口の中に入っていた食べ物を飲み込ませようとしている現場にも遭遇した」

（保育士）

「食べた子の名前をつけた残食の写真を毎日撮らされた」

（保育士）

「先輩の先生がクラスで毎日完食した子と人数を発表して褒め、みんな完食できたらご褒美を、という全体責任の指導をしていた。すごく嫌だった」

（保育士）

「職員会議では『完食を強制していません。フルーツのタイミングも子どもに任せています』と言う上司が、給食の時間になると『全部食べてからね』と子どもの意思に反する指導をしていた」

（保育士）

「涙目でモグモグしていて、明らかに飲み込めなくて辛そうな子を前に、席を外したスキに口の中のものを出させて残飯にしたら、後から園長に呼び出された。『あそこで出させたら本人のためにならない、わたしが悪者になるのわかるよね？』と言われた」

（保育士）

「無理やり食べさせているにもかかわらず、保護者への連絡では『完食』と伝えていた。保護者が喜ぶのでそうな構造になっていた」

（保育士）

「食べさせずに終わろうとすると、完食主義が強い保育士に『代わって、食べさせるから』と言われ断れなかった。実際交代すると子どもは完食していた」

（保育士）

「スープのお椀を口に当てて無理に飲ませたり、なかなか食べない子に机を叩いて強い口調で怒る先輩がいた。見ていられなかった。他のことも含めて異議を申し立てたが、その後退職した」

（保育士・退職済み）

「園内研修で『無理やり食べさせることは良くない』と全員で学んだが、独自のスタイルを変えず無理やり食べさせる保育者がいる」

（保育士）

- 1 給食指導が一因で退職した・退職を考えたことがある職員は**25.0%（約4人に1人）**に達した。「実際に退職した」という回答も計15.0%（15名）あり、給食指導の問題が人材の流出にもつながっている実態が明らかになった。
- 2 「完食指導なし・楽しい雰囲気重視のB園（月給23万円）」vs「完食指導重視のA園（月給24万円）」の選択では、**99.0%（99名）**がB園を選ぶという結果になった。月給1万円の差よりも、給食指導のあり方を重視する現場職員の意識が浮き彫りになった。
- 3 「完食指導を行いません」という方針を求人票に明記した場合、**92.0%（92名）**が応募意欲が「高まる」と回答した。給食指導の方針の発信は、人材採用の面でも大きな訴求力を持つことが示唆される。
- 4 自由回答では、「完食直前に強要して全部吐いた」「残食の写真に子どもの名前をつけて毎日撮らされた」「無理やり食べさせているのに保護者には『完食』と伝えていた」など深刻な事例が多数寄せられた。問題は個々の保育士の資質だけでなく、園全体の方針や職場の雰囲気・風土が関係していることが複数の回答から読み取れる。
- 5 「方針は正しくても現場に浸透しない」「会議では言わないが現場では昔ながらの指導をしている」という回答が複数あった。園全体で共通理解を持つための研修や仕組みづくりの重要性が改めて示された。
- 6 これらの結果から、給食指導の問題は「子どもへの影響」にとどまらず、**現場職員の離職・採用・働きやすさ**にも直結していることが明確になった。給食指導の方針改善は、子どもの食の環境を守ると同時に、職場環境の改善にもなりえる。

【調査実施と報告書執筆の責任者】

株式会社日本教育資料 代表取締役

「きゅうけん | 月刊給食指導研修資料」 編集長 山口健太

【運営媒体】

「きゅうけん | 月刊給食指導研修資料」（運営元：株式会社日本教育資料）

<https://kyushoku.kyo-shi.co.jp/>

きゅうけんでは、毎月給食指導の情報をわかりやすく発信。毎日忙しい先生たちが直感的に理解できる1枚の図解資料が好評です。教育関係者向けの研修の講師依頼も承っており、これまで延べ1万人以上に実施。

【問い合わせ先】

本件に対するお問い合わせは mail@kyo-shi.co.jp までメールをお願いします。